

大分県新長期総合計画策定県民会議 第1回総合調整部会 委員発言要旨

日時：令和5年11月15日(水)10:00～12:00

場所：トキハ会館 5階 ローズの間

No.	項目	発言要旨
1	安心1 (2) 防災	<ul style="list-style-type: none"> ・復興の進め方を平時から考えておくことも大事だと思う。 ・東日本大震災からの復興状況を見ると地域差が大きい。どういう手順で復興住宅を建てて、何年で復興していくのかなど、平時から復興への備えをしていたところが結果として取りかかりも早かった。目指す姿で表現することは難しいかもしれないが、たとえ大災害が起きても復興に向けて県として準備ができているということが見えると、県民は安心できると思う。
2	安心4 (3) 介護	<ul style="list-style-type: none"> ・介護のみならず福祉業界全般が人材不足に最も頭を悩ませている。これは当面、構造的課題として続くであろうが、だからこそ目指す姿に「必要な介護人材を確保できている」と書き込むなど、県の覚悟を示してはどうかと考えている。
3	安心5 障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方も人の役に立っている、頼られている、知識や経験が活かされているなど、たとえ重度障がいの方であっても周りの人の支えになっていることがたくさんある。そういうこともしっかり描いておくと、何か明るい10年後が見えてくるようでよいのではないかなと思う。
4	安心5 障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・施策名が、障がい者「雇用率」日本一から「活躍」日本一に変わったが、活躍というのはどういった指標で評価することになるのか。
5	安心6 (3) NPO	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題はその時々で様々なものが出てくる。時代が進めば、その時の新しい課題が出てくる。したがって、目指す姿は「地域課題が解決されている」と言い切るのではなく「地域課題を適切に解決できる体制ができている」や「迅速に対応できている」など、そういった書きぶりにしてはどうか。
6	安心6 (3) NPO	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOとボランティアが並列で書かれていることに違和感を感じる。NPOがボランティアで運営されていると誤解を与えないか。NPOは決してボランティアでできるものではないので、併記することの是非を検討いただきたい。 ・また、NPOはあくまで協働の対象であって支援の対象ではないのではないかな。そのあたりも含めて検討いただきたい。
7	安心7 (1) 防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・「加害者ゼロ」は残念ながら実現可能性が著しく低いと思う。 ・むしろ犯罪抑止や被害者保護など、傾向と対策を分析しながら、具体的にできることを実施するほうが県民の安全・安心な暮らしにつながると思う。
8	元気1 (1) 農業	<ul style="list-style-type: none"> ・農業分野も後継者不足や担い手不足に苦しんでいる。また、物価上昇の影響も厳しい。物流の2024年問題では大消費地である東京への農産物輸送が困難になることを心配している。 ・こうした中で何をやるべきかを考えた時に、県民が消費するものを県内で作る「県産県消」をやってみてはどうかと考えている。そのためには消費者の意識付けが大事になる。その上で「儲かる農業」とか「汚くない農業」とか、そういった話が出てくるのかなと思っている。
9	元気1 (1) 農業	<ul style="list-style-type: none"> ・「儲かる農業」ではなく、どのように儲けるか、儲ける仕組みを自分たちで考えて経営していくことが大事だと思う。 ・若者にとっては「きつくない、汚くない」ということよりも、儲かる仕組みの中で対価をしっかり得ることがむしろ大事で、そういう中ではたとえきつなくても頑張れるのではないかなと思う。

No.	項目	発言要旨
10	元氣1 (1) 農業	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県には全国に通用する魅力ある農産物がたくさんある。しかし、それらを全国に届ける流通・販売対策が十分でないと考えている。 ・県産品に対する全国需要は確実にある。物流の2024年問題も間近に迫る中で、流通・販売対策の支援や生産者指導を急ぐ必要があると思う。
11	元氣2 (1) 産業 振興	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県には、アトツギ甲子園で3年連続で決勝に進出し、最優秀賞を受賞した実績もある。こうした実績を県民にもっとアピールしてはどうか。アトツギ企業の活躍は県内企業の元気の源になると思う。
12	元氣3 (1) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光分野の2施策の10年後の目指す姿は実現可能だと思う。 ・特定地域に集中していたインバウンドが全国津々浦々に分散する流れがある中で、大分県にはその恩恵を受ける大きなチャンスになっている。 ・海外からの認知度はまだまだ途上かもしれないが、九州にはななつ星、大分県には車いすマラソンやアルゲリッチ音楽祭など、世界に発信できる魅力がすでにいろいろある。しっかりアピールしていくことで目指す姿は実現できると思う。
13	元氣3 (1) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・別府、湯布院に来る観光客をいかにして県内全域につなげていくかが大事。県内回遊を促進する施策に集中的に打って出ることが必要。 ・来年はデスティネーションキャンペーンもある。大分県の魅力を広く知っていただくことで、それが県内に住んでいる人々の自信や誇りにもつながっていくと思う。
14	元氣3 (1) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県は全国的にも芸術文化の振興に力を入れているという新聞記事を見た。大分県が芸術文化の面でも全国的に有数ということであるならば、これは関係人口だけでなく定住人口の増加にもつながっていくポテンシャルになると思う。
15	元氣3 (2) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでよし訪れてよし」という施策名は、まさにこの言葉しかないと思う。住んでいる人々が自信を持っている街には、国内のみならず世界の人々も憧れる。 ・いかにして県民と共に住みよい街、持続可能な街をつくっていくのか、この視点に立って描く姿がまさに10年後に目指す観光地域の姿だと思う。
16	元氣4 (1) 海外	<ul style="list-style-type: none"> ・海外展開の際には、時間をかけた人と人との交流が大事になる。 ・アメリカやヨーロッパ、東南アジアなどの海外に、人と人をつなぐような大分県の拠点があれば、海外の人が大分県をどのように見ているのかということもよく見えてくる。そういう10年後になっていれればと思う。
17	元氣5 (1) 人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの大学には、外国で1年間働くことで単位認定されるインターン制度があり、国を挙げて取り組んでいる。日本のホテル業界で働いてみたいという声が多いようだ。 ・外国人材の確保に向けては、日本人と一緒に暮らせる環境整備ももちろん大事だが、送出国の状況調査や誘致活動をしっかり行うことも重要となる。
18	元氣5 (1) 人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの浸透により、通勤がネックになっていた障がい者の方々にとっても働きやすい環境が整ってきている。 ・安心分野でも、障がい者がいきいきと活躍できる環境づくりに取り組むことが示されていたが、元氣分野でも、目指す姿に「障がいの有無にかかわらず」という言葉を盛り込んではどうか。
19	元氣6 (1) 芸術 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・「障がい者が芸術文化活動を通じていきいきと活躍している」という視点ももちろん大事だが、10年後を見据えるなら「芸術文化が障がい者の職業として成り立ち、生活できている」という姿も描いたほうがいいのか。

No.	項目	発言要旨
20	元気7 (1) スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・「障がい者が気軽に楽しみながらスポーツに参加している」姿を描くこと自体はいいと思う。 ・一方で、計画全体の基本目標には「誰もが活躍」と書かれており、この「誰もが」には、障がい者や高齢者などあらゆる人が含まれる。そうした中で改めてこの施策の目指す姿を読み返すと、例えば3つ目の目指す姿（国際スポーツ大会で活躍）には障がい者が含まれていないように読めてしまう。障がい者を特別視するような、誤解を生みかねない表現になっているので、そこは書きぶりを工夫してほしい。
21	元気7 (1) スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の国体では、大分県出身ではないが大分県で働いている方が優勝した。大会で活躍する選手の姿を大分県出身者に限定する必要はないのではないかなと思う。
22	元気7 (2) スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・大分国際車いすマラソン大会は、地域の元気づくりに資する一大イベント。これだけ県民ぐるみで応援し、地元の新聞やテレビも熱心に取り上げる大会は全国的にも珍しい。ぜひ県民に元気を与えるイベントとして車いすマラソンのことを書き加えてほしい。（政策7(2)）
23	未来 創造1 (1) 交通	<ul style="list-style-type: none"> ・未来創造部会で交通ネットワークに対する意見が多く出ていることから、ニーズが非常に高いと感じている。交通ネットワークはすべての基盤になるため、10年後の目指す姿を時系列で整理することも含めて、しっかりと組み立てる必要がある。
24	未来 創造1 (3) 交通	<ul style="list-style-type: none"> ・「足下の公共交通についてしっかり記載すべきである」という未来創造部会の意見に賛同する。地域交通の10年後の目指す姿③には、まずは、既存の公共交通サービスを維持し、接続性や組み合わせも含めて魅力を高めることを記載すべき。 ・デマンドタクシーについては、未来創造の政策2(2)「持続可能なコミュニティづくりによる地域の未来への継承」に記載することも検討すべきと考える。
25	未来 創造2 (1) 移住 定住	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークは、大分と東京などの大都市間だけでなく、県内の中心部と地方の間でも効果を発揮する。湯布院はコロナ前から急激に人口が減り始めているが、テレワークを活用すれば、湯布院からでも大分市の仕事ができるのではないかなと考えている。 ・教育においても、どの地域に住んでいても、子どもが希望する教育を受けられることが大事になってくると思う。
26	未来 創造2 (2) ネットワーク・ コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・「住み慣れた地域に住み続けたい」という住民の思いは、今後も変わらないと思う。その思いを叶えるには、東九州自動車道や中九州横断道路をはじめ、社会インフラをいかに充実させるかが鍵を握る。10年後にはDX化をはじめ、ドローンやICT等の活用で買い物弱者対策も一層進むだろう。これまでどおり、自然豊かな小規模集落で安心して暮らせる未来にしていきたいと思っている。 ・一方で、社会インフラが充実している都市部へ人が集中するのは自然な流れだと思うが、都市部への誘導を推進するのであれば、全国のコンパクトシティの成功事例を研究する必要がある。必ずしも都市部に誘導するのではなく、都市部の資源を活用しやすい近郊で生活する選択肢を提供することも大事ではないか。
27	未来 創造3 (1) カーボン ニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> ・観光分野でも、環境都市としてどのような魅力があるかが、世界の潮流となっている。スウェーデンを含め北欧が憧れの地になっているのは、経済と環境がしっかり両立しているからである。大分県においても、その両立の重要性や価値観を観光事業者はもとより県民に対してしっかり啓発していくことが大事。 ・カーボンニュートラルをはじめとした環境と経済の好循環が、自分たちの地域の誇りにもなり、県外の人からも評価される。そうすれば必ず10年後の目指す姿に近づいていくと思っている。
28	未来 創造4 (1) DX	<ul style="list-style-type: none"> ・DXは新たな価値を生み出したり、生産性を向上するものであり、文書のペーパーレス化はDXの手前のデジタル化である。働き方やサービスそのものを変革して稼ぐことが「トランスフォーメーション」だと思うので、言葉の使い方について検討いただきたい。

No.	項目	発言要旨
29	未来創造5(3)教育	<ul style="list-style-type: none"> ・10年後の目指す姿④について、プログラミング教育の充実が質の高い教育につながるという書きぶりに違和感を感じる。プログラミング教育は、施策(2)の「社会の変化に対応する教育の展開」に記載すべきではないか。
30	未来創造5(3)教育	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育は、情報処理という名前で何十年も前から教科として取り組まれており、目新しいことではない。どの地域に住んでいても、質の良い教育を等しく受けられる環境づくりのため、教職員の適正配置や働き方改革を市町村と一緒に取り組むことに力点を置くべきはないか。子ども、保護者、地域の方が、学校に行くのが楽しい、学校に行ってみたいと思えるような学校づくりをしてほしい。 ・また、県内でも十分素晴らしい教育が受けられるということを、もっと県外の方にアピールすれば、教育面でも移住・定住を促進できるのではないかと思う。
31	未来創造5(3)教育	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末が普及し、子どもたちのデジタルスキルが向上する一方で、子どもが時間管理できないという問題も生じている。タブレットに夢中になりすぎると、視力や思考力、対人関係にも影響があるのではないか。タブレットの利点ばかりが強調されているので、弊害についても検証しながら取組を推進してほしい。
32	未来創造5教育	<ul style="list-style-type: none"> ・本年6月に決定された教育振興基本計画において、教育の分野においてもウェルビーイングの重要性が盛り込まれている。多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、人との関係をより良くしたり、社会を良くするという広い幸福の概念であるが、大分県はウェルビーイングな生き方ができる非常に良い地域だと思うので、記載を検討いただきたい。
33	施策全般	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にカタカナの専門用語が多い気がする。もう少し分かりやすい日本語で記載したほうが、より県民に伝わりやすくなるのではないかと思う。